

中学部 教科別の指導「音楽」Aグループ 学習指導案

日 時	令和〇年〇月〇日 (〇)
第 校時	第〇校時 〇〇:〇〇～〇〇:〇〇
場 所	〇〇〇教室
指導者	〇〇〇〇 (T1～T9)

1 題材名 器楽：「世界に一つだけの花」

2 題材設定の理由

(1) 生徒観

中学部では、「ひとと音・音楽～療法として音楽を使う～ 山根寛編 青海社」の中にある【音楽活動遂行機能評価表】における項目を10項目抜粋（活動への参加の仕方や音楽への興味・関心）し、よりの絞った内容で行うために、【表1】を基にアセスメントをとった。

中学部全体では、55名在籍しており、【表1】のアセスメントの全体の平均値は28.6点である。

グループ編成は①アセスメントの結果、②各生徒の障害の実態（発作・身体の機能等）、③アセスメント以外での認知面やそれに伴う支援度合いにより編成した。上記の①、②、③を考慮し、中学部全体の生徒をAグループが33名（平均値36.7点：教員数9名）、Bグループが22名（平均値16.5点：教員数14名）に分け、授業を行うこととした。

本指導グループはAグループであり、【表2】はAグループのアセスメントの結果を示したものである。Aグループの音楽の授業の取り組みにおける主な実態は【表2】の通りであり、グループの男女比は男子24名、女子9名の計33名である。Aグループの生徒は、知的障害、自閉スペクトラム症、広汎性発達障害、ダウン症、ジュベール症候群、ウィリアムズ症候群、2番部分トリソミーが主障害である。その他、聴覚的には、聴覚過敏があり、イヤーマフをつけている生徒、視覚的には、斜視等で見え難さがある生徒、身体的には、側弯の手術をしている生徒や手指の不器用さがある生徒がいる。また、概ね全体の指示で行動に移せる生徒が多い。重複学級の生徒が1名おり、個別の支援を要することもある。

認知面（授業中の支援教材に対しての）においては、色の識別は概ねできており、画面に映し出された色と担当の楽器の色とをマッチングしてタイミングよく演奏できる生徒が多く、複数の色やリズムが同時に画面上に示されていても、自分の担当するパートの部分を見て演奏できる生徒が半数近くいる。また、教員の言葉かけが必要な生徒もいるが、演奏のタイミングがずれても自分のリズムを意識してたて直したり、自分と同じグループの音を聞きながら音を合わせて演奏できたりできる生徒もいる。

集団の特性としてはコミュニケーションが苦手である生徒や自分の気持ちを言葉で伝えられない生徒もいるが、友達の演奏を聞いた時の感想発表では、言葉が不明瞭な生徒であっても、自分が感じたことを言葉で表現したり、授業毎の目標を踏まえて生徒同士が感想発表で称賛し合ったりして、全員ではないものの、自分が感じたことを他者へ伝えようとするようになってきている。また、個人では、自信がなく取り組み難いことであっても、集団として目標を意識し、他者を意識して取り組める雰囲気もできつつある。

また、GIGA スクール構想 において一人一台のタブレット端末が配布されることとなり、生徒はiPadの音楽制作アプリケーションのGarageBandを自ら操作し、様々なリズムを考えたり、アプリ内の楽器の音色を使ったりして、遊びながら音楽を創っている生徒もいる。このことにより生徒一人一人が音楽に興味を持ち、生徒にとって音楽を創ることに加え、音楽そのものがより身近なものとなってきている。

【表1：引用資料；「ひとと音・音楽」（青海社、2007）より本校生徒用に抜粋】

○1～5で評価してください。
 ○1:全体的な援助が必要、2:部分的な援助が必要、3:定期的な助言・確認が必要、4:時々、助言や確認が必要、5:大筋で問題ない
 引用資料:「ひとと音・音楽」(青海社、2007)より一部抜粋

項目 名前	認知・遂行		感覚運動		心理面		社会技能				その他 (特記することがあります) す	
	① 音楽活動内容の理解 (活動内容をわかっている)	② 注意・集中 (必要な注意を払い、集中して活動することができる)	③ 問題に対する対処 (わからないことなどに対して援助を仰ぐことができる)	④ 目的動作の協応性 (目と手の協調、両手の協働など音楽活動に必要な動きができる)	⑤ 感情のコントロール (他者とコミュニケーションがとれる)	⑥ 音楽活動への興味・関心 (音楽活動に対する興味や関心があるかどうか)	⑦ 参加・交流 (他者との共同作業に対して参加し必要な交流が持てる)	⑧ 基本的配慮 (活動に当たって日常的な挨拶など基本的な配慮ができる)	⑨ 表現・意思表示 (音楽活動にあたって、自分の考えや気持ちを伝えることができる)	⑩ 協調性 (場の状況に合わせて、他者と協調した行動ができる)		

【表2：Aグループ生徒のアセスメントの結果】

生徒	認知・遂行		感覚運動		心理面		社会技能				合計	特記事項 ⑪ 実態等
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
A	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4	41	
B	3	3	3	4	3	4	3	3	3	3	32	
C	4	4	4	5	5	5	5	3	5	5	45	
D	3	3	3	4	3	4	3	3	3	3	32	
E	4	4	3	4	5	5	4	4	4	4	41	
F	4	3	3	4	3	5	4	4	4	3	37	
G	5	5	3	5	4	5	5	5	5	4	46	
省略 (A~AG:合計33名)												
AF	4	3	2	4	4	4	3	3	3	4	34	
AG	3	3	2	4	4	3	4	3	3	4	33	

(2) 題材観

特別支援学校中学部学習指導要領【音楽】《2 各段階の目標及び内容 2段階》(2)内容〈A表現〉における〈イ 器楽〉より抜粋

(ア)器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと
(イ)④多様な楽器の音色と全体の響きとの関わり
(ウ)⑦簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して、演奏する技能
①打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、音色や響きに気を付けて演奏する技能
②友達の楽器の音や伴奏を聴いて、リズムや速度を合わせて演奏する技能

を考え、以下の題材を設定した。

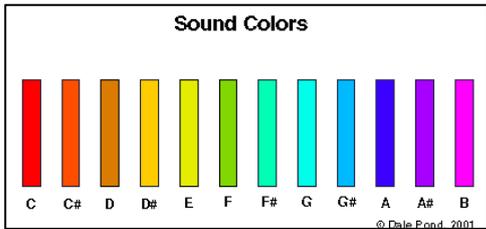
本授業の使用曲は、「世界に一つだけの花」である。本題材は、2003年にSMAPが歌い大ヒットした曲で、「ナンバーワンにならなくてもいい。一人一人にはそれぞれの個性がある。」というメッセージが、現代の社会に生きる多くの人の共感を得て、様々な教科書でも取り上げられ、「音楽☆☆☆☆」(文部科学省H23)にも掲載されるようになった。

本題材は歌唱として扱うことも多くあるが、今回は新型コロナウイルスの影響や1学期に行った文部省唱歌の

『茶摘み』をキーボードやギター・大正琴・卓上ベル（※以下「ベルハーモニー」）・音積み木を使って器楽合奏を行った結果、生徒が様々な楽器に対する興味や器楽合奏に対する興味が少しずつ出てきたことから、器楽として扱う。

曲は拍子が4分の4拍子、速さが♩=96~104（『音楽☆☆☆☆』掲載の速さ）である。調性は、 $\text{♩}=\text{♩}$ （ト長調：#1つ）で行い、今回は原曲にある♩（16分音符）や♩（タイ）は使用せず、原曲の雰囲気崩さないように編曲した。本授業では、速さは♩=80で、構成する音符は、♩（2分音符）、♩（4分音符）、♩（8分音符）、♩（4分休符）、♩（8分休符）、♩（3連符）で編成し、曲の長さは生徒たちが見通しを持って演奏ができる27小節で編曲をした楽譜で合奏を行う。また、全体への支援方法は映像教材（本授業では映像教材＝楽譜）を使用し、音符やリズム等の曲の流れを視覚的に意識しやすいように作成した。【9 その他*1 支援動画用の楽譜】参照。

また、使用楽器については、音楽の3要素である、リズム・メロディ・ハーモニーを全員が意識できるように楽器の選定を行い、生徒の実態に応じて楽器の割り当てを行った。今回の使用楽器は、キーボード・ギター・ベルハーモニー・木琴・打楽器（バスドラム・スネアドラム・ハイハット・トライアングル）を使用し、全体で使用する楽譜は、以下の写真を27小節分つなぎ合わせ編曲した、「世界に一つだけの花」に合わせ、Keynote等を使用し、動画教材（楽譜）を作成した。



また、音符・楽譜の色分けについては基本的にベルハーモニーの配色と同等にしているが、音楽全般に関する配色は右図を基本としている。

様々な楽器を使用したり、同一の楽器であっても、音の高低があつたり、弾く音が異なったりすることで、和音を構成し、音の広がりを感じて合奏をしてもらいたい。その中で楽器を通して自らの役割を感じ取り、楽譜通りに合わなくとも全員で一つのを創り上げていることを感じて欲しい。そして、曲を通して、みんなの音があつた時の響きや他者との繋がりを感じて合奏に取り組んで欲しいと考えている。

(3) 指導観

本題材における器楽合奏は、楽器の役割が異なり、打楽器がリズムを刻み、ベルハーモニー・ギター・木琴が和音を作り、キーボード・ピアノがメロディを奏で、それぞれが役割を持ち、一つの音楽が完成するものである。

生徒の日常生活面において、自分自身のことが先行してしまい、他者に合わせて行動したり、発言したりすることが苦手な生徒が多くいる。また、実態別にグループに分けてはいるが、実態差の中で発語が不明瞭であつた

り、認識的な面で幅があったり、コミュニケーションがお互いに取り難かったり、他教科では、同じ題材を通してみんなで同一のものを作り上げ難かったりすることが考えられる。

その中でも、音楽は言語を介さなくともコミュニケーションが取れ、楽器の違いや演奏方法の工夫により、みんなで同一の目標や曲の完成に向かい、同じ方向を向いて取り組めると考えられる。言葉でのやり取りが苦手な生徒でも、音と音を通してコミュニケーションを取ることで、そこに一体感が生まれ、その場での自分自身の立ち位置・役割というものを意識することができる。

また、器楽合奏を通して、①手指の操作性、②認知・推理・判断力、③聴く力を身に付けることができるよう指導していきたい。

① 手指の操作性に関して、

本題材においては様々な楽器を使用する。まずは、パート練習を行い、自らの楽器の奏法を知ったり、音の響きや自らのパートの楽譜に慣れたりすることを通して、得た情報を音として相手に伝えるために自身の身体で楽器を操作しながら、楽器が響くように演奏していく。

ここでは、『個』の役割を知り、少しでも自分の担当する楽器に自信を持ち、全体合奏の中でも演奏できるようにすることを身に付けることができるようにする。

② 認知・推理・判断力に関して、

各パート練習の後に全体合奏を行う。全体合奏では、パート練習で培った知識・技能を活かし、他の楽器が違う旋律・リズムを演奏していることに気付いて、全体の響きを感じて演奏していく。

生徒が音やリズム同士に関係性があることを曲の雰囲気を感じたり、知識として知ったりすることを通して、本人なりの気づきが生まれ、全体を意識して『個』から『集団』の意識を持って、一つの音楽が形成されることでより深い学びにつなげることができるようにする。

③ 聴く力に関して、

最終的には、お互いの音を聴き合い、一つの音楽として成り立った時の一体感や響きの美しさを感じてもらいたい。そのために、感想を言ったり、お互いが称賛し合えたりする環境を整えることで、合奏をすることへの喜びや集団での自らの立ち位置や集団で音楽を行う意味、さらには最後まで学びをやり通した後の達成感へとつなげていきたい。

楽器ごとの支援方法や指導のポイントに関しては、以下の通りである。

個別の支援 (楽器)	楽器の支援仕方	役割	指導のポイント 【9 その他*1 支援動画用の楽譜】 参照
キーボード ピアノ		メロディ	音符に色を付けた楽譜を見て演奏する。リズムの要素では、生徒の既習の学習から、意識し難いリズムパターンはないが音と音の重なり合いや音の数が多く、早くなったり、自分の中で演奏する箇所が分からなくなったりするので他の楽器の音を聴き、合わせて演奏し、また、周りの楽器の音があるからメロディが輝けるということも知り演奏できるようにする。
ギター		リズム 和音	コードで演奏するのではなく、単音で演奏する。7音全部演奏する生徒もいるが、実態に応じて、ベルハーモニー・木琴の部分の楽譜の上段(4音)・下段(3音)のみを演奏する生徒もいる(和音構成は同一)。弦の数が多く、演奏し難い生徒に関しては、弦の本数を減らし、適した箇所を演奏しやすいように支援する。全音演奏する生徒も、しない生徒も、ギターの響きを感じ、演奏できるようにする。

打楽器		リズム	生徒（楽器）の配置により楽譜を形成している。楽譜の下からバスドラム・スネアドラム・ハイハット・トライアングルと配置することで、基本的に下から上へ楽器が移り替わるように動画（楽譜）を作成した。生徒には、前の人演奏したら、次は自分だということを知った上で、順番を意識し、リズムが曲の中心であるということ意識して演奏できるようにする。
木琴		和音	支援動画（楽譜）でベルハーモニーと同様の箇所を見て演奏する。音の配列は同様であり、4音担当と3音担当の役割を持って演奏する生徒や両手で和音を演奏する生徒もおり、左右違った音を演奏し、和音を奏で、木琴全体で和音や楽器の響きを感じとって演奏できるようにする。
ベルハーモニー		和音	曲の和音構成から7音を選び、和音を形成した。4音担当・3音担当と役割を分け、演奏をする。音の重なり合いから、和音が作り出されることを知り、音の響きを感じながら演奏できるようにする。一概に3音であるから演奏しやすいということではなく、同音が連続している時、次の音のタイミングを待って演奏することが課題の生徒もいる。

楽器の割り振りに関しては、上図の指導のポイントや生徒の実態を踏まえ、行った。

また、本授業において、通年で評価表を使用し学習を行っている。本題材における評価表は〔9その他、*2パート練習時の評価表、*3合奏時の評価表（全員共通）〕である。評価表を使用することで、評価の仕方や指導の方向性等、共通の認識のもと指導に当たることができる。また、評価を積み重ねることで、一時間ごとの生徒の目標を定めて一人一人の指導・支援に当たることができ、系統性を持ち学習を行えると考える。

形のない音や音楽を感じたり、聴いたりすることは、様々な生徒が同じ場でその体験を共有できる。音や音楽は人と人をつなぎ、コミュニケーションと同じ意味を持つ（非言語コミュニケーション）。音や音楽を通して、対人関係が苦手な生徒や言語発達に困難さがある生徒に対して、共に同じ空間で、同じ曲を通して生徒の積極的な音楽活動への参加を促し、個人のより豊かな感情表現を引き出し、行動面・精神面の発達やより良い集団作りをすることにつなげていきたい。

3 生徒の実態

- ・音楽活動遂行機能は【2（1）生徒観】のアセスメント表【表2】の結果を参照。
- ・器楽における既習曲の学習の習熟度は、（9 その他 【*4-1 *4-2】）の各評価表を参照。
- ・その他実態は教育支援プランA・Bを参照。

4 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

- ・器楽における使用曲を適切な内容にする。 主体的な学び
- ・題材における演奏の小節数・速度や楽器の割り振りを生徒の実態に応じた内容にする。 主体的・深い学び
- ・指導・支援を適切に行い、教材教具（ICT 機器・支援具等）を使用する。 主体的・深い学び
- ・本時の生徒の目標を明確に設定する。 主体的・対話的・深い学び
- ・友達の演奏を聴き合い演奏したり、感想を発表したりすることで、お互いに称賛し合い、達成感を味わう。 主体的・対話的・深い学び

5 題材の目標

(1) 共通目標 (音楽全体として)

全体の目標	① 楽譜を見たり、音源を聴いたりしながら、リズムや速度や音色等の全体の響きを合わせて演奏することができる。 【知識及び技能】 ② 音量・奏法・音色・速度等を考えながら演奏し、お互いに楽器の同士の音の響きを感じ取り、表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ③ お互いに聴き合い、一体感や自分の楽器に自信や責任を持って最後まで合奏することができる。 【学びに向かう力、人間性等】
-------	---

(2) 個人目標 (楽器ごと) *評価者は各パートで行う。 *楽譜=紙の物、動画教材のことを指す。
 ※「'」「”」について：使用教材は楽器ごとに同様であるが、生徒の実態に応じて目標が異なる。「'」の数に応じて目標が下位になる。

キーボード ピアノ (T5, 6)	① 楽譜を見たり、暗譜をしたりして、自らメロディを意識して演奏することができる。 【知・技】				
	② 奏法や音色等を考え、お互いの楽器の音の重なり合いを感じ取り、メロディを表現することができる。 【思・判・表】				
	③ 他の楽器の音を聴き合いながら、最後まで自信を持ち合奏することができる。 【学・人】				
	a	M	X	G	N
※	① ' 楽譜を見て自ら弾く音を確認し、メロディを意識しながら演奏することができる。 【知・技】				
	② ' 奏法や速度を考えながら、自分が弾く部分を意識してなるべく周囲の音の響きを感じ、表現することができる。 【思・判・表】				
	③ ' 音源やお互いの音を聴き合い、最後まで自信を持ち合奏することができる。 【学・人】				
	a'	W	Q	AA	
※	① '' 音源に合わせてたり、教員の言葉かけに合わせてたりしながら自分なりに演奏することができる。【知・技】				
	② '' 運指を意識して、自らが弾く部分を確認してメロディを表現することができる。 【思・判・表】				
	③ '' 曲の雰囲気に合わせて、自信を持ち演奏することができる。 【学・人】				
	a''	AF	C		
他楽器		省略 (それぞれの楽器に対して同様に記載)			
ベルハーモニー (T2, 8)	① 楽譜の色を見て、曲の速さに合わせて4つの音を楽譜の適した箇所タイミングよく演奏することができる。 【知・技】				
	② 音の強さや楽器の響きを考え、自分の楽器の響きを感じ、表現することができる。 【思・判・表】				
	③ ベルハーモニーの和音の響きを聞き合い、最後まで見通しを持ち、表現することができる。 【学・人】				
	e	Z	Y	AG	
	① ' 楽譜を見たり、教員が言葉かけをしたりして、3つの音を適した箇所タイミングよく演奏することができる。 【知・技】				
	② ' 音の強さや楽器の響きを考え、自分の楽器の響きを感じ、表現することができる。 【思・判・表】				
	③ ' ベルハーモニーの和音の音を聴き合い、最後まで見通しを持ち、演奏することができる。 【学・人】				
	e'	AE	AD	D	O

6 題材における指導計画 (計8回)

日程	時間における全体目標	主な活動内容
10月27日	・楽器の奏法・楽譜に慣れる。	パート練習(楽器ごとに教室に分かれて授業を行う) それぞれの楽器の奏法・曲の速度等を個に応じて指導する。
10月29日 11月5日 10日	・自分の楽器の音を聴く ・楽譜を見て演奏する。	
11月19日	・自分や周りの音を聴く。	一つの教室で全体合奏を行いながらパートごとの演奏も行い、繰り返し行う。 違う楽器の音を聴き合い、自分の担当楽器以外の他の音に慣れたり、お互いに称賛し合ったりする。
11月26日	・自分や周りの楽器の音を聴こう。 ・音を合わせて演奏しよう	
12月1日(本時)	・音を合わせて演奏しよう。 ・良い音で演奏しよう。	自らの楽器の響く奏法を考え、他の楽器と合わせて演奏する。
12月10日	・心を合わせて演奏しよう。 ・良い音で演奏しよう。	奏法・速度等をそれぞれが考え、みんなで音を合わせて演奏し、曲を仕上げる。

7 本時の学習

(1) 共通目標

全体の目標	① 楽譜を見たり、音源を聴いたりしながら、合わせて演奏することができる。【知識及び技能】 ② お互いの楽器の音を聴き合い、音量・奏法・音色を考えながら演奏することができる。【思考力, 判断力, 表現力等】 ③ 最後まで諦めずに自分の楽器に自信や責任を持ち、合奏をすることができる。【学びに向かう力, 人間性等】
-------	---

(2) 個人目標

*「'」「''」について: 使用教材は楽器ごとに同様であるが、生徒の実態に応じて目標が異なる。「'」の数に応じて目標が下位になる。

キーボード ピアノ (T5, 6)	① 楽譜を見て、自らメロディを意識して演奏することができる。 【知・技】
	② 奏法や音色等を考え、楽器の響きを感じ取り、メロディを表現することができる。 【思・判・表】
	③ 他の楽器の音を聴き合いながら、最後まで自信を持ち合奏することができる。 【学・人】
	a M X G N
a'	① ' 楽譜を見て自ら弾く音を確認し、演奏することができる。 【知・技】
	② ' 奏法や速度を考えながら、自分が弾く部分を意識して、表現することができる。 【思・判・表】
	③ ' 音源やお互いの音を聴き合い、最後まで自信を持ち合奏することができる。 【学・人】
	a' W Q AA
a''	① '' 音源に合わせてたり、教員の言葉かけに合わせてたりしながら自分なりに演奏することができる。 【知・技】
	② '' 運指を意識して、自らが弾く部分を確認してメロディを表現することができる。 【思・判・表】
	③ '' 曲の雰囲気に合わせて、自信を持ち演奏することができる。 【学・人】
	a'' AF C
他楽器 省略 (それぞれの楽器に対して同様に記載)	
ベルハーモニー (T2, 8)	① 楽譜の色を見て、4つの音を楽譜の適した箇所タイミングよく演奏することができる。 【知・技】
	② 音の強さや楽器の響きを考え、自分の楽器の響きを感じ、表現することができる。【思・判・表】
	③ ベルハーモニーの響きを聞き合い、最後まで見通しを持ち、表現することができる。 【学・人】
	e Z Y AG
e'	① ' 楽譜を見たり、教員の言葉かけを受けたりして、3つの音を適した箇所演奏することができる。 【知・技】
	② ' 音の強さや楽器の響きを考え、自分の楽器の響きを感じ、表現することができる。【思・判・表】
	③ ' ベルハーモニーの音を聴き合い、最後まで見通しを持ち、演奏することができる。 【学・人】
	e' AE AD D O

(3) 本時の展開 (下記のアルファベットは【5(2)個人目標(楽器ごと)】のグループである。)

計時	学習内容	指導上の留意点										備考		
	楽器	キーボード			ギター			打楽器		木琴			ベルハーモニー	
	(グループ)	a	a'	a''	b	b'	b''	c	c'	d	d'		e	e'
0分	0 準備	<p>◇座る位置を確認し楽器の準備を自ら考えて行動することができる。</p> <p>○楽器の準備を行い、それぞれが演奏できる体制になる。</p> <p>●自分の演奏する場所へ移動し、楽器の準備ができるように言葉かけを行う。(T1～T9)</p> <p>◆1 自ら準備をすることができたか。 ◆2 教員と一緒に準備をすることができたか。</p>										iPad 分配機 HDMI ケーブル 4本 プロジェクター テレビ2台		
	グループごとの評価の観点	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆2	◆1	◆2	◆1	◆2		◆2	◆2
導入 2分	1 あいさつ (3年生)	<p>◇授業の準備をして始まりを意識することができる。</p> <p>○号令を聞いて、始めのあいさつをする。</p> <p>●3年生に「号令をしてくれる人」と聞く。(T1)</p> <p>●あいさつを行える体制を整える。(T2～T9)</p> <p>◆1 起立や声に出してあいさつ等をして始まりを意識することができたか。</p>												
	グループごとの評価の観点	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	
3分	2 本時の目標	<p>◇本時の目標を聞いて、目標を意識し、確認することができる。</p> <p>○目標「①音を合わせて演奏しよう。②良い音で演奏しよう。」の確認をする。</p> <p>●黒板に書いてある本時の生徒が意識する目標「①音を合わせて演奏しよう。②良い音で演奏しよう。」を読む。(T1)</p> <p>●黒板に注目できるように、言葉かけを行う。(T2～T9)</p> <p>◆1 本時の目標を一緒に確認することができたか。</p>												
	グループごとの評価の観点	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	
3分	3 器楽 「世界に一つ だけの花」 ①鑑賞	<p>◇合奏に向けて曲の雰囲気を感じ、曲のイメージを持ち聞くことができる。</p> <p>○動画教材の映像を見る・聴く。</p> <p>●聴く体制を整える。</p> <p>◆1 練習を通して学んだことを活かし、メロディを口ずさんだり、リズムを取ったりしながら聴くことができたか。</p> <p>◆2 動画教材や自らが使用している楽譜に集中して、聴くことができたか。</p>												

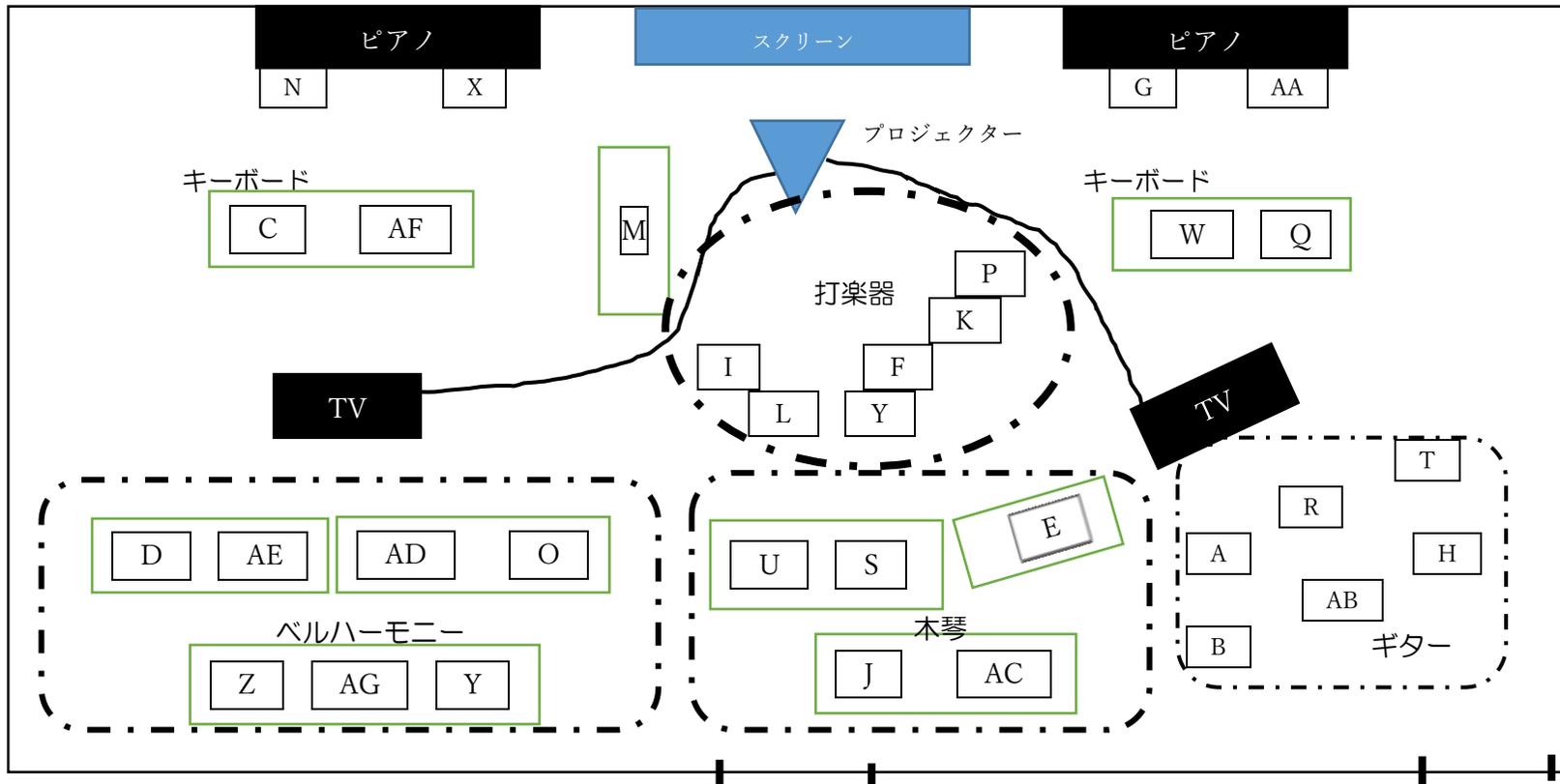
	グループごとの 評価の観点	◆ 1	◆ 1	◆ 2	◆ 1	◆ 1	◆ 2	◆ 1	◆ 2	◆ 1	◆ 2	◆ 2	◆ 2
2分	②全体合奏	<p>◇1 楽譜を見たり、音源に合わせて演奏することができる。</p> <p>◇2 言葉かけや身体支援等で、教員と一緒に演奏することができる。</p> <p>○伴奏音源に合わせて演奏する。(全体) 1回</p> <p>●楽器の準備や姿勢を整える言葉かけを行い、演奏の体制を整える。(T1～T9)</p> <p>●生徒たちが演奏するために必要な支援を行う。(T1～T9)</p> <p>◆1 自ら演奏に必要な楽譜や楽器を構えや姿勢を整え、演奏することができたか。</p> <p>◆2 言葉かけや適した支援を受けて、教員と一緒に演奏することができたか。</p>											
	グループごとの 評価の観点	◇1◆ 1	◇1◆ 1	◇2◆ 2	◇1◆ 1	◇1◆ 2	◇2◆ 2	◇1◆ 2	◇2◆ 2	◇1◆ 1	◇2◆ 2	◇1◆1 1	◇2◆2 2
15分	②1パートごとの合奏 ③他グループの鑑賞(感想発表)	<p>◇1 楽譜や音源に合わせて演奏することができる。</p> <p>◇2 個に応じた支援を受けて演奏することができる。</p> <p>○伴奏音源に合わせて、1パートごとに演奏する。(1回ずつ)</p> <p>●動画や楽譜を見ながら、生徒が適したタイミングで演奏できるように支援を行う。(対象のグループのT)</p> <p>◆1 自ら曲を意識し、楽譜や音源に合わせて演奏することができたか。</p> <p>◆2 支援を受けて、自分なりに演奏することができたか。</p>						<p>◇3 他の楽器の演奏を聴き、良かったところを見付けることができる。</p> <p>◇4 他の楽器の演奏を聴くことができる。</p> <p>○聞いているグループは、それぞれの感想を言う。</p> <p>●他パートを聞けるように言葉かけを行う。(左記以外のT)</p> <p>◆3 他の楽器の演奏を聴き、感想を持ち、発表することができたか。</p> <p>◆4 他の楽器の演奏に集中して聴くことができたか。</p>					
	グループごとの 評価の観点	◇1◆ 1	◇1◆ 2	◇2◆ 2	◇1◆ 1	◇1◆ 2	◇2◆ 2	◇1◆ 1	◇2◆ 2	◇1◆ 1	◇2◆ 2	◇1◆1 1	◇2◆2 2
		◇3◆ 3	◇4◆ 4	◇4◆ 4	◇4◆ 4	◇4◆ 4	◇4◆ 4	◇4◆ 4	◇4◆ 4	◇3◆ 3	◇4◆ 4	◇4◆4 4	◇4◆4 4
7分	④3パート以下を合わせて合奏	<p>◇1 他の楽器を聴きながら、自らの楽器の音を聴き、演奏することができる。</p> <p>◇2 自ら楽器の音に集中して演奏することができる。</p> <p>○2パートずつ合わせて合奏する。</p>											

		<p>① 木琴・ベルハーモニーと打楽器 ② キーボードと打楽器 ③ ギターと打楽器</p> <p>●「音源に合わせて演奏しよう」等の言葉かけを行う。(T1)</p> <p>●担当生徒が楽器演奏する時に、楽譜を一緒に追って指差しをしたり、言葉かけをしたりして生徒の支援を行う。(T2～T9)</p> <p>◆1 他の楽器の音を聴いて、自分の楽器に集中して演奏することができるか。</p> <p>◆2 自らの楽器の音に集中して演奏することができたか。</p>	
	グループごとの評価の観点		
7分	⑤全体合奏	<p>◇1 楽譜を見たり、音源に合わせてたりして、お互いの音を聴いて合わせて演奏することができる。</p> <p>◇2 言葉かけや身体支援等で、教員と一緒に演奏することができる。</p> <p>○伴奏音源に合わせて演奏する。(全体) 2回</p> <p>●「お互いの音を聴いて演奏しよう」等の言葉かけを行う。(T1)</p> <p>●生徒たちが演奏するために必要な支援を行う。(T1～T9)</p> <p>◆1 お互いの音を聴いて、楽譜や音源に合わせて演奏することができたか。</p> <p>◆2 音源を聴きながら、支援を受けて演奏することができたか。</p>	
	グループごとの評価の観点		
4分	4 振り返り	<p>◇本時の目標「①音を合わせて演奏しよう。②良い音で演奏しよう。」を聞いて、目標を意識して授業に取り組むことができる。</p> <p>○各グループの教員からの振り返りを聞き、他グループや自分のグループの活動の様子を称賛し合う。</p> <p>●本時の目標に即し、担当グループについて様子を全体の前で振り返りを行う。(T2～T9)</p> <p>●本時の目標を踏まえ、次の時間の目標や注意点を意識できるようにする。(T1)</p> <p>◆1 自らの楽器担当の教員からの助言を聴き、本時の目標を振り返ることができたか。</p> <p>◆2 本時の目標を振り返ることができたか。</p>	
	グループごとの評価の観点		
2分	5 あいさつ	<p>◇起立や声に出してあいさつをすることで、終わりを意識することができる。</p> <p>○号令を聞いて、終わりのあいさつをする。</p> <p>●3年生に「号令をしてくれる人」と聞く。(T1)</p> <p>●あいさつを行える体制を整える。(T2～T9)</p>	

		◆1 起立や声に出してあいさつ等をして終わりを意識することができたか。										
グループごとの 評価の観点	◆1	◆1	◆1	◆1	◆1	◆2	◆1	◆2	◆1	◆2	◆2	◆2

*楽器の片付けは授業終了後に行う。

(4) 指導体制



8 本時の評価

(1) 生徒の評価	(2) 教師の評価
-----------	-----------

【知・技】	・楽譜（紙の楽譜・動画教材）に注目して演奏することができたか。	・生徒一人一人への楽器の割り振り・楽譜（紙の楽譜・動画教材）は適切であったか。
【思・判・表】	・生徒は周りの音を聴き合い、全体を意識して合奏をすることができたか。（←演奏時の音量・リズム・メロディが合っているか、途中からでも合わせられるか等で評価）	・題材における演奏の速度や楽器の割り振りは適切であったか。
【主体的な学び】	・各生徒が本時の目標を意識して最後まで見通しを持ち学習をすることができたか。	・教師の指示や環境設定は適切であったか。

9 その他（支援教材・生徒の1学期の評価等）

〔* 1 支援動画用の楽譜〕

①

Musical score for measure 1. The guitar part consists of a sequence of notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The piano accompaniment features a sequence of colored blocks: black, blue, red, orange, yellow, red, orange, black. The drum part shows a pattern of triangles and circles on a grid.

②

Musical score for measure 2. The guitar part consists of a sequence of notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The piano accompaniment features a sequence of colored blocks: orange, red, orange, yellow, red, orange, black. The drum part shows a pattern of triangles and circles on a grid.

③

Musical score for measure 3. The guitar part consists of a sequence of notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The piano accompaniment features a sequence of colored blocks: red, green, blue, green, blue, black. The drum part shows a pattern of triangles and circles on a grid with yellow arrows pointing right.

④

Musical score for measure 4. The guitar part consists of a sequence of notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The piano accompaniment features a sequence of colored blocks: orange, blue, red, orange, blue, black. The drum part shows a pattern of triangles and circles on a grid with yellow arrows pointing right.

⑤

Musical score for measure 5. The guitar part consists of a sequence of notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The piano accompaniment features a sequence of colored blocks: orange, blue, red, orange, yellow, red, orange, black. The drum part shows a pattern of triangles and circles on a grid.

⑥

Musical score for measure 6. The guitar part consists of a sequence of notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The piano accompaniment features a sequence of colored blocks: orange, blue, red, orange, yellow, red, orange, black. The drum part shows a pattern of triangles and circles on a grid.

⑦

Musical score for measure 7. The guitar part consists of a sequence of notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The piano accompaniment features a sequence of colored blocks: blue, orange, blue, black. The drum part shows a pattern of triangles and circles on a grid.

〔*2 パート練習時の評価表 『世界に一つだけの花』〕

評価表		11/10				
キーボード・ピアノ(T9-T4)						
評価指標: △:適宜支援が必要 ○:部分的にできる ◎:自主的にできる						
評価項目・目標	M	X	G	AA	N	
音の場所を確認して、音源と合わせて弾くことができる(いずれでも可)	◎	◎	◎	○	○	
音源に合わせて、歌いながら弾くことができる。	○	○	◎	△	○	
楽譜を見て弾くことができる。	◎	○	◎	○	○	
自分の音以外を聴いて弾くことができる(周りの音と合わせて)	◎	○	○	○	○	
周りの音を聴いて、メロディを正確に弾くことができる。	◎	○	○	○	○	
複雑にして、自らメロディを意識して弾くことができる。	△	△			△	

評価項目・目標	W	Q	AF	C
楽譜に合わせて指を動かすことができる。	○	◎	○	○
音の場所を確認して、音源と合わせて弾くことができる(いずれでも可)	◎	◎	○	○
音源に合わせて、歌いながら弾くことができる。	○	◎	△	△
楽譜を見て弾くことができる。	○	◎	△	△
自分の音以外を聴いて弾くことができる(周りの音と合わせて)	○	◎	△	△
周りの音を聴いて、メロディを正確に弾くことができる。		◎	△	△

コメント(取り組み方向のご記入をお願いします)

他パートも同様に評価表で評価している。

〔*2 パート練習時の評価表〕

パート練習における評価表では、段階や積み重ねが分かりやすい評価表を作成した。

楽器担当の教員が指導・支援をする際に、生徒に達成してほしい項目にマーカーを付けて共通理解をした。

〔*3 合奏時の評価表(全員共通)〕

全体合奏の評価表である。パート練習時の評価項目の記述はないが、評価表の中には、パート練習時の評価項目も含まれる。また、全体合奏に関する評価項目もあるため、合わせて評価を行う。

〔*3 合奏時の評価表(全員共通) 『世界に一つだけの花』〕

12月1日		【評価者: 】	*評価の指標 : △:常に支援が必要(身体支援・言語等) ①:他人に合わせようとする ②:自分のできるところを見つけて取り組める ◎:自分で意識して取り組める	
【音楽】『世界に一つだけの花』における共通目標の項目				
知識及び技能	① 楽器を演奏するために構えることができる。			
	② リズムに合わせて自分の楽器を演奏することができる。			
	③ 演奏時の注意事項を意識して演奏することができる。 【話を聞くとき、扱い方等】			
	④ カの入れ具合、楽器の角度、運指を調整し演奏することができる。			
	⑤ 楽器ごとに良く響く奏法で演奏することができる。			
思考力・判断力・表現力	① 楽譜を見ながら、演奏することができる。【部分的に】			
	② 楽譜を見ながら、タイミングを合わせて演奏することができる。 【楽譜通りに・自分の担当楽器の楽譜】			
	③ 周回の演奏の速さを聞き合い、合わせて演奏することができる。			
	④ 表現(音色・奏法)を工夫し、演奏することができる。			
	⑤ 良い音で楽器の響きを考え、演奏することができる。 *間違えても、演奏場所を修正し演奏することができる。			
学びに向かう力 人間性等	① 授業の始めと終わりを意識して、学習に取り組むことができる。			
	② 曲の最後まで集中して演奏することができる。			
	③ 授業全体に集中して取り組むことができる。			
	④ 自分ができるところ見つけて演奏することができる。			
	⑤ お互いの音を聞き合い演奏することができる。 【全体を聴き、タイミングを合わせて】 *友達の演奏の良かったところを発表したり、認めて称賛したりすることができる。【鑑賞】			
【コメント】				
各担当教員が上記で評価できないことや生徒の様子等の自由記述。				

区分	目標一覧表 (A) 中学部 1段階をベースに	備考			
授業に 取り組む 様子	<p>【1 知識及び技能】 知</p> <p>① 音楽用語を知識として理解することができる。</p> <p>② 曲名や音楽の種類 (ジャンル) があるということを知ることができる。</p> <p>③ 曲名や音楽の種類 (ジャンル) を知識として理解することができる。</p> <p>【2 (思考力)、判断力、(表現力)等]</p> <p>④ 周りの動きに注意し、みんなと一緒に活動することができる。</p> <p>⑤ 教員の話や話を聴き、自分が演奏するところ以外 (前奏 後奏等) でも集中して行うことができる。</p> <p>⑥ 自分のできるところを見付け、意欲的に取り組むことができる。</p> <p>【3 学びに向かう力・人間性等]</p> <p>⑦ 最後まで自信を持ち、自分なりに堂々と歌唱や楽器等に取り組むことができる。</p> <p>⑧ 始めと終わりを意識し、最後までみんなと一緒に (協力して) 行うことができる。</p> <p>⑨ 声の大きさ等を意識して、お互いに聞き合い、一体感を感じ、声を揃えて歌うことができる。</p>	<p>【音楽用語】</p> <p>クレッシェンド</p> <p>デクレッシェンド</p> <p>スタッカート</p> <p>リタルダント</p> <p>アツチェラント</p> <p>フェルマータ</p> <p>フレーズ</p> <p>ピアノ</p> <p>フォルテ</p> <p>4拍子</p> <p>3拍子</p> <p>コールアンドレスポンス</p> <p>長調・短調</p> <p>R&B</p>	<p>【2 器楽】 (←メロディ楽器を使用した場合他の観点を留意します)</p> <p>(1) 楽器の扱い方の基本について 知</p> <p>① 楽器を扱うときの注意点を意識することができる。(持ち方・姿勢)</p> <p>② 力の入れ具合・楽器の角度を調整し、良い音で演奏することができる。</p> <p>(2) (リズムメイン)の合奏の技能・表現について 技・表・思</p> <p>③ 曲の雰囲気を感じ、楽器を鳴らすことができる。</p> <p>④ 模範を見たり、聞いたりしてリズム等を真似して演奏することができる。</p> <p>⑤ 楽譜・口唱歌等でリズムを意識し、リズムよく演奏することができる。</p> <p>⑥ 音 (リズム・和音) や響きを揃えて演奏することができる。</p> <p>⑦ 曲想 (だんだん大きく、だんだん小さく等) を感じ、演奏することができる。</p> <p>⑧ 表現 (奏法・音色) を工夫し、演奏することができる。</p> <p>⑨ 音・音色・リズムを揃えて、合奏することができる。</p>	口唱歌 (口伝) 絵の楽譜	
表現	<p>【1 歌唱】</p> <p>(1) 姿勢・口徑への意識 技</p> <p>① 歌唱時の姿勢 (肩幅の意識・手の位置・顔の向き等) ・口の開け方 (口形) を意識できる。</p> <p>② 姿勢や声を整え、声を合わせて発声することができる。(準備運動時・授業全体を通して)</p> <p>(2) 歌唱の技能・表現等について(曲の雰囲気) 技・表・思</p> <p>③ 息を吸うタイミングを揃えて、曲に合わせて声を出すことができる。</p> <p>④ 教員の模範を聞いて歌ったり、歌詞を見て歌ったりすることができる。</p> <p>⑤ 友達の歌声や伴奏を聴いて声・言葉に合わせて、歌うことができる。</p> <p>⑥ 自分で歌詞やリズム (拍子等) を意識して歌うことができる。</p> <p>⑦ 自分なりの表現で歌うことができる。</p> <p>⑧ 曲想 (やさしく、強く、だんだんと大きく、だんだんと小さく等) を意識して歌うことができる。</p> <p>⑨ 歌詞の内容・情景を意識 (気持ちを含めて、表情や姿勢等で判断) して、歌うことができる。</p> <p>⑩ 音程を意識し、みんなで声を揃えて歌うことができる。</p>	<p>【発声】</p> <p>ライオン</p> <p>カエル</p> <p>ゾウ</p> <p>セミ</p> <p>タブラチュア</p> <p>輪唱 (カノン)</p> <p>階名唱</p>	表現	<p>【3 音楽づくり】</p> <p>(1) 音楽作りの基本について(話し合い) 学</p> <p>① 活動の意味を理解し、取り組むことができる。</p> <p>(2) 自分の音楽表現について 技・表・思</p> <p>② 自分でリズムを考えることができる。</p> <p>③ みんなで相談してリズムを決め、音を組み合わせたたり、リズムパターンを考えたりすることができる。</p> <p>④ 自分たちが考えたリズムパターンを生かして、簡単な音楽を創ることができる。</p> <p>⑤ リズムの組み合わせ方や重ね方 (自分のグループや他のグループのリズム) により、一つの音楽ができることを知ることができる。</p>	<p>【音楽用語】</p> <p>ミニマル</p> <p>ミュージック</p> <p>輪唱</p> <p>口唱歌 (口伝)</p> <p>偶然性の音楽</p>
	<p>・【*4-2】の評価表における項目で番号がないものは、上表の目標よりも上位の目標となっている。</p>		<p>【4 身体表現】</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造との関わりについて 知・技・表・思</p> <p>① 曲を聴いて、自由に体を動かし、感じ取った曲想を表現する。</p> <p>② 模範を見たり、曲の説明を聞いたりして、曲の速度やリズム、曲の雰囲気等で感じたものを自分なりに身体で表現できる。</p> <p>③ 曲のジャンル (*1) や拍 (*2) を感じ取り、表現することができる。</p> <p>(2) 曲名や歌詞と体の動きとの関わりについて 知・技・表・思</p> <p>④ 歌詞に出てくる言葉 (イラストを見るなどして) と曲想を考え、自分なりに表現することができる。(手話・身体の動き等)</p> <p>⑤ 曲に合わせて、イメージを自分の中に落とし入れ、表現することができる。(一つ一つの動きではなく、流れを持ち、音楽表現することができる。)</p>	<p>*1</p> <p>マーチ・ワルツ・ポップス・ジャズ・R&B等</p> <p>*2</p> <p>2拍子</p> <p>3拍子</p> <p>4拍子</p>	
			鑑賞	<p>【5 鑑賞】</p> <p>(1) 鑑賞についての知識について 知</p> <p>① 曲目・演奏の形態・作曲家・ジャンルについて知ることができる。</p> <p>(2) 曲目や曲想についての理解 表・技・思</p> <p>② 曲全体の雰囲気を感ずることができる。(明るい感じ・暗い感じ等)</p>	オペラ ミュージカル 民族音楽 オーケストラ 雅楽等